

【中学校の部】優秀賞

本耶馬溪をさらに活気づけるために

中津市立本耶馬溪中学校 3年
村上萌々花

私の住む本耶馬溪は、美しい山国川がとおり、オランダ橋がかかり、四季それぞれに魅力を感じる、自然豊かな素晴らしいところである。春には桜が咲き、おいしい山菜が採れ、夏は緑の山々に囲まれ、セミが鳴く。秋には山が赤や橙、黄色に染まり、冬は澄んだ空気に息が白く染まる。にぎやかな四季と共に一緒に過ごしていく日々は、ここに住む私たちの宝物である。

しかしさらに本耶馬溪を盛り上げるためには、こうした自然の中で暮らす人々を増やすことが必要だと思う。本耶馬溪には、美しい自然にひかれ、多くの観光客が訪れる。若い世代から高齢の人まで、幅広い層の人たちが訪れ、夫婦やカップル、家族連れも多く目にする。こういった人たちが実際に本耶馬溪に来て、さらに興味、関心を持つことで、本耶馬溪に住みたいという移住者を増やせるのではないかと思った。

私たちは学校で、「地域活性化」に取り組んでいる。私たち中学生にできることやどう盛り上げるかなどを考え、実際にお店に行き、提案をした。新商品のスイーツの開発や廃材を使ったおもちゃを販売し、今ある花畑を拡大させ、種類を増やし、SNSで拡散するなど、色々な視点から、本耶馬溪を盛り上げようと考えた。しかし、全てが簡単に実現するわけではなく、費用や労働などの現実的な問題などがあつた。そして何より、お店側の思いが大切だと学んだ。

提案を受け入れてくれるお店やそうでないお店もある中で、お店に限らず、本耶馬溪を盛り上げたいと考えていたという話をきき、私はちょうど、テレビで低速電動バス「グリーンスローモビリティ」があることを知った。「グリーンスローモビリティ」は、電動で時速20km未満で公道を走る、4人乗り以上の公共の乗り物のことをいう。これは二酸化炭素の排出量が少なく、ゆっくりで窓ガラスがないため、観光にぴったりで高齢化が進む地域や道幅が狭くバスが走れなかった場所に住む地域住民の交通手段としても、役立つのではないだろうか。まさに私たちの本耶馬溪にぴったりといえるものであると思う。地域としては、免許を持っていないお年寄りが、何か買い物をしたいときに利用したり、同じく免許を持っていない子どもも気軽に利用したりすると、コミュニケーションが増え、交流が広がり、さらに活気づいたあたたかい本耶馬溪になると考える。また観光としては、いろいろな場所に車や自転車、歩きなどの移動手段を考えずに移動でき、ゆっくり開放的な空間で自然の美しい本耶馬溪を楽しむことができると思う。さらに私たち地元の中学生在が考えた、本耶馬溪の一日の観光プランでお店やスポットを巡ると、より充実したものになるのではないかと思う。

このように、今ある本耶馬溪の美しい自然とともに、地域の人や観光客の方々の活気がさらに高まると、より本耶馬溪を盛り上げていくことができる。今後も私の大好きな地域のためにできることについて考え、周りの人にも伝えていきたい。